

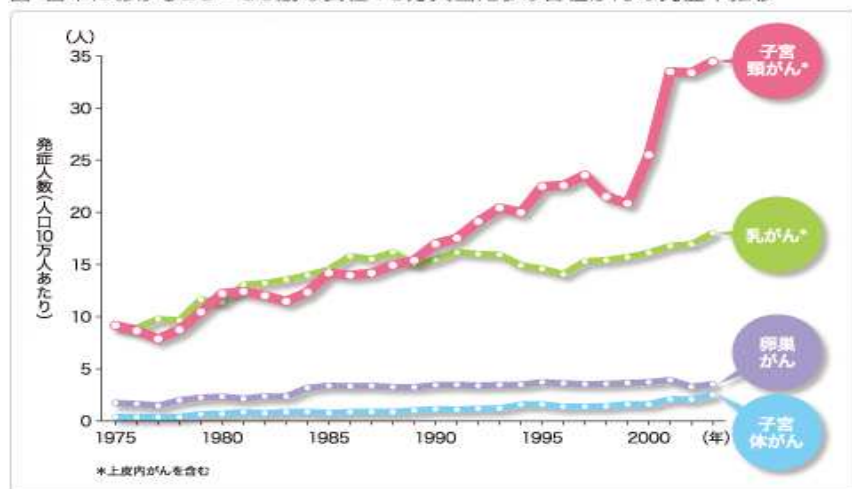
いそファミ通信

H22. 2月号



昨年の年末に子宮頸癌ワクチンが一般の医療機関でも接種することができるようになりました。子宮頸がんとは、子宮の入り口付近、「子宮頸部（しきゅうけいぶ）」にできるがんのことをいいます。子宮頸がんはその他のがんと異なり、原因が解明されていて、ほぼ100%がヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染です。皮膚と皮膚（粘膜）の接触によって感染するごくありふれたウイルスで、すべての女性の約80%が一生涯に一度は感染しています。

図：日本における20～39歳の女性10万人当たりの各種がんの発症率推移



国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働大臣官房統計情報部)

ヒトパピローマウイルス（HPV）とは...

HPVは100種類以上のタイプがあります。このうちの約15種類は子宮頸がんの原因となることが多いため、発がん性HPVと呼ばれています。中でも、HPV16型とHPV18型と呼ばれる2種類は、子宮頸がんを発症している20～30代の女性の約70～80%から見つかっています。

子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）

子宮頸がん予防ワクチンは、発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因として最も多く報告されているHPV16型と18型の感染を防ぐワクチンです。感染を防ぐために3回のワクチン接種で、発がん性HPVの感染から長期にわたって

からだを守ることが可能です。しかし、このワクチンは、すでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。

ワクチンの接種方法

1～2回の接種では十分な抗体ができないため、半年の間に3回の接種が必要です。3回接種で、最長6.4年間HPVの感染を防ぎます。しかし、接種期間の途中で妊娠した際には、その後の接種は見合わせることでされています。費用について、当院では1回接種につき15,000円いただいております。

図：接種スケジュールと感染予防効果



サーバリックスの効果

サーバリックスは、臨床試験により15～25歳の女性に対するHPV16型、18型の感染や、前がん病変の発症を予防する効果が確認されています。発がん性HPVに感染する可能性が低い10代前半に予防ワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。26歳以上の女性においては、予防効果に対するデータはありませんが、サーバリックスを接種すると、15～25歳の女性と同じように抗体ができることが確認されています。

当院では、サーバリックス接種は予約が必要です。お電話、または当院受付にてご予約できます。

子宮頸がんは「予防できるがん」です。ただし、ワクチンを接種していても、年に1回は定期的な子宮頸がん検診を受けましょう。

いそむらファミリークリニック